

2008年3月10日

(これは、ロンドンにて2月26日付で配信したものを、日本の皆様に向けて抄訳したものです)

スタンダードチャータード銀行:2007年度決算で税引き前利益 40.4 億米ドル (前年比 27%増)を計上 - 収益伸び率は 28%と発表

収益・利益共に史上最高レベルの実績を計上(収益 110 億ドル、利益 40 億ドル)、

一株当たり配当は 12%増の 79.35 セント

スタンダードチャータード PLC(スタンダードチャータード銀行の最終持ち株会社。本社:ロンドン、CEO:ピーター・サンズ)は、2月26日付で2007年度決算発表を致しました。税引き前利益は、前年比で27%増の40億4000万ドル、営業利益は28%増の110億700万ドルを計上し、昨年度も引き続き、堅調な実績を報告させていただきました。また、一株当たり利益は前年比で16%増の197.6セントとなっているほか、当行グループ取締役委員会より、同日付で、一株当たり配当が79.35セント(前年:71.04セント)との報告をさせていただきました。

当行グループの営業利益の内、その80%はオーガニック成長によるものですが、純利益については、前年18%から23%に増加しています。また、ホールセール部門・コンシューマーバンキング部門共、顧客セグメントおよび商品カテゴリーすべてにおいて、堅調な収益モメンタムを見せており、昨年度は両部門共、各々10億ドル超の収益増(税引き前利益27%増)となっています。

当行グループ CEO であるピーター・サンズは以下のように述べております。

「昨年度は、市況が波乱含みの中、事業展開を遅らせたり縮小することなく、ホールセール・コンシューマーバンキング両部門において、以前にも増して事業投資を行い、これまでにない利益を計上することができました。2007年度における当行グループの手がける事業範囲や規模がさらに広がり、多岐にわたる金融商品・各国地域市場においてその堅調な実績が示されています」

主要市場における当行業績は好調に続伸

スタンダードチャータード銀行が事業展開する主要市場において、昨年度はそのほとんどが記録的な業績を計上しております。税引き前利益については、収益面で最大規模の市場となる香港では、前年比で34%、同様に、インド71%、シンガポール54%、中国72%、その他アジア太平洋地域175%、アフリカ諸国全般では55%の伸びを示しています。また、韓国においては、純収益率が飛躍的に伸び、2桁成長(調整後)を見せています。ただし、会計処理(為替ヘッジ)後は、税引き前利益を29%下回っています。

主要市場におけるハイライト:

- 香港においては、過去7年で類を見ない収益成長が見られたことから、収益20億超、税引き前利益10億円超を初めて達成
- インドにおいては、ホールセールバンキング部門がフランチャイズ事業で最大規模に成長したことから、2007年度は過去2年間(2006年度・2007年度合計)の総利益を上回る利益計上を達成
- 中国においては、外資銀行として初めて地域銀行業務を手がけ業務強化を図ったことから、行員数が概ね倍増

バランスの取れた収益成長による業績推進

ホールセールバンキング部門においては、顧客セグメント・主要市場すべてにおける飛躍的な業務取引増加、そして収益モメンタムに支えられ、営業利益は 34% 増となり、昨年に引き続き好調な業績となりました。部門別の収益成長率については、グローバルマーケット 41%、キャッシュマネージメント 31%、貿易金融および融資が 23% となっています。

通年では、当行顧客企業の皆様の中で、当行を主幹事[コア]銀行とする企業数がますます増えてまいりました(企業収益規模: 5 百万ドル以上 93%、1 百万ドル以上 59%)。

コンシューマーバンキング部門における営業利益率は 24% となり、1200 の新規商品を展開(2006 年度: 新規商品数 840)。収益成長率は、9 市場(収益: 2 億ドル超)にバランス良く分散された形で堅調に伸びております。ウェルスマネージメント業務は、当部門総収益の 45% (2006 年度同比率: 35%) を占め、収益比率では一位となっています。また、プライベートバンキング業務については、新たに 7 市場 10 拠点で事業展開いたしました。

昨年度は、主要市場における販売網拡大のため大幅に事業投資を行い、新規店舗 70 カ所、中小企業向け(SME)金融サービスセンター 30 カ所、個人顧客向け金融サービス拠点 20 カ所に加え、ATM サービス拠点 400 カ所を設立いたしました。

特別項目

2 項目(総額 2 億 1500 万ドル)が追加収益として計上されたが、その内訳は、シンガポール行政当局による規制変更による当行支店からの本店への資本返還から発生した為替益と、クレジットカード会社 Visa Inc. の再編により当行グループが保有する株式からの評価益となります。ただし、同追加収益額は、昨今の金融市場の混乱、さらには韓国における為替ヘッジに関する会計処理の問題から生じた総額 3 億ドルの損失で相殺されました。

当行グループのファイナンス・ディレクター(財務最高責任者)であるリチャード・メディングスは、「当行グループの実績については、上記のようなマイナス要因による影響があったにもかかわらず、税引き前営業利益が前年比で 27% 増となり、初めて 40 億ドルを超えました。現在事業展開する市場において、さらに大きなビジネス機会をつかむことができる大変良いポジションにあるといえます」と述べています。

サブプライムローン問題に対するスタンダードチャータード銀行の直接的なリスクエクスポージャーはなく、間接的なエクスポージャーも非常に限られたものとなっています。

当行グループの流動性および自己資本については堅調に推移しており、市況が大荒れとなった 2007 年 9 月時点においても、Tier II 項目では、5 回の債券発行により 20 億ドルの資本調達を果たしております。また、バーゼル II に従い、Tier I 項目の自己資本率は、目標数値内の 7-9%。総資本率は 12-14% を上回っています。

当行グループの買収能力

2007 年下半期には、インドの UTI 証券会社(UTI Securities)、航空機ファイナンスを専門とする金融リースおよびアドバイザー会社ペンブローク社(Pembroke)、石油・ガス業界専門のファイナンシャルアドバイザー会社ハリソン・ラブグローブ社(Harrison Lovegrove)、ファンド管理業務を行う韓国の Aブレイン社(A Brain)、そしてアメリカンエクスプレス銀行(American Express Bank)各社の買収事業を完了致しましたが、特に、アメリカンエクスプレス銀行の統合により、当行のプライベートバンキング事業・金融法人向け事業が迅速に促進し、さらに 19 拠点において新規市場参入が可能となります(注記: 日本においては金融法人向け事業の統合のみとなります)。また、2008 年 1 月には、韓国の相互銀行である Yeahreum 銀行の買収締結を実施しています。

ピーター・サンズ(当行グループ CEO)は、さらに以下のコメントを述べています。

「2007年は、ホールセールバンキング・プライベートバンキング両部門において飛躍的な収益成長の伸びを見せたことから、本年度も大変好調なスタートを切ることができました。特に、ホールセールバンキング部門においては、1月時点でこれまでにない実績を上げることができました。当行の業績は大変堅調であり、確固たる事業基盤を有しています。今後も、当行のオーガニック成長を持続させるため、さらなる事業投資を行う所存です。2008年は、疑いもなく最大限の努力が要求される年になると思いますが、この波乱含みの市況の中、新たな市場リスクが生まれるということは、新たなビジネス機会が訪れるということであると考えております」

財務実績ハイライト

(単位:百万米ドル)

当行グループ	2007年度	2006年度	増減(%)
営業利益	11,067	8,620	28
費用	(6,215)	(4,796)	30
融資の減損	(761)	(629)	21
税引き前利益	4,035	3,178	27
ホールセールバンキング部門			
営業利益	5,243	3,923	34
税引き前利益	2,347	1,849	27
コンシューマーバンキング部門			
営業利益	5,806	4,684	24
税引き前利益	1,677	1,322	27

国・地域別実績

(単位:百万米ドル)

国・地域	2007年度	2006年度	増減(%)
香港	1193	888	34
シンガポール	446	289	54
マレーシア	236	178	33
韓国	324	454	(29)
その他アジア太平洋地域	572	208	175
• 中国	184	107	72
インド	690	403	71
MESA	591	503	17
アフリカ	298	192	55
北中南米・英国グループ	(315)	63	-

- 中国は、その他アジア太平洋地域として分類

スタンダードチャータード銀行- アジア・アフリカ・中東地域における先駆者として

スタンダードチャータード銀行の最終持ち株会社であるスタンダードチャータード・ピーエルシーは、ロンドン証券取引所ならびに香港証券取引所に上場し、時価総額ベースでFTSE100 構成銘柄の上位25 社にランキングされています。ロンドンに本拠地を置く当行グループは、創立以来150 年以上の歴史を誇り、世界で最もダイナミックな市場—アジア・アフリカ・中東地域における先駆者として事業展開しています。過去5年間に於いて、その収益と行員数は2倍強となりましたが、これは主として事業母体の収益成長(オーガニック成長)、加えて、買収事業の後押しによるものです。

私たちは、ステークホルダーである皆様の「真のパートナー」として実績で他行をリードする、世界最高の国際銀行を目指しています。当行グループは、現在、全世界で115 以上の国籍によって構成される総勢70,000余名の行員を擁し、70カ国以上に1,600店舗の事業ネットワークを展開しています。また、グループ総収益の9割は、アジア・アフリカ・中東地域における事業収益であり、ホールセールバンキング、コンシューマーバンキング両部門から計上されるバランスの取れた収益となっています。

また、当行グループは、長期的視野に立ったサステナビリティ(持続的成長)のある事業構築に取り組んでおり、高いレベルでの企業統治(コーポレートガバナンス)を保持、また、社会的責任を果たし、環境保護と多様性のある人材育成を行っていることから、世界中の信頼を勝ち得ています。

日本・アジア地域におけるスタンダードチャータード銀行について

日本におけるスタンダードチャータード銀行の歴史は、横浜にはじめての駐在員事務所を開設した1880 年にさかのぼり、今年で128 年目を迎えました。現在では、東京支店(千代田区・山王パークタワー)および丸の内支店において、約270名の従業員を擁しています。スタンダードチャータード銀行は、アジア、アフリカ、中近東の各地域で投資事業を展開する日本の企業法人・金融法人のお客様向けにはホールセール(大口金融)、カストディ、トレジャリー、トレードファイナンス等の業種に沿ったサービスを提供する一方、個人のお客様向けには2005年に「プライオリティバンキング」を開設し、さらなる成長を続けています。

世界におけるスタンダードチャータードのウェブサイト(英語): www.standardchartered.com

日本におけるスタンダードチャータード銀行のウェブサイト(日本語): www.standardchartered.co.jp

日本におけるスタンダードチャータード銀行のウェブサイト(英語):

www.standardchartered.co.jp/index_english.html

日本におけるスタンダードチャータード銀行プライオリティバンキングのウェブサイト(日本語):

www.standardchartered.co.jp/cb/pb/

当件に関するお問い合わせはスタンダードチャータード銀行コーポレートアフェアーズ部にて受け付けます。

森田 早智

Tel: 03-5511-1245 / Fax: 03-5511-9311

Sachi.Morita@standardchartered.com

部長 クリストファー・ドミター

Tel: 080-1037-6223 / Fax: 03-5511-9311

Christopher.Domitter@standardchartered.com

(日本語で対応します)